

2020/12/2

(うとQ世話し 何で家だけ違うんや?)

「人生は重き荷を背負って、遠き道に行くが如し」

「人生は成る丈背負わず、近き道をすり抜けて楽をすべし」

最初の一句は、戦国三大武将性向比較「鳴かぬなら鳴くまで待とう不如帰」の句で有名な徳川家康公の遺訓で、大昔、家のばあちゃんが、事ある毎に子供の自分に申しておったものでございます。

二番目の句は自作で、後でお話し申し上げます。

それにしても、じいさん、ばあさんや親に言われたことというものは、とまれこうまれ、将又(はたまた)良かれ悪しかれ、何かしらのものが、頭のどこかに残っているようで、その言葉を使わずとも、知らぬ間に自分も中学に上がった頃の息子たちにそのような事を述べていたのかもしれない。

それが癩に障ったのか、ある日息子から

「ほかの親はみんな成る丈苦労しないで行けというのに、家だけは苦労は買ってでもしろという。何で家だけ違うんや? あんた、なんやらおかしいんと、ちゃう?」

実は二番目の句は、それを代弁して自作したものでした。

それが、父子の「諍い(いさかい) 始まりの号砲」だったようです。

それから早、20年。

その20年目にあたる今年、奇しくもコロナ禍がやって参りました。

そのせいかどうかは分かりませんが、今年に限って息子は何故か「家だけ変やで」とは言わなくなっております。

一時的な休戦なのか、それとも納得なのか。

それは分かりませんが、例年に比べて多少なりとも助かっている事だけは確かなようで、今般の苦しき折には、とてもありがたき事として受け止めておる次第でございます。